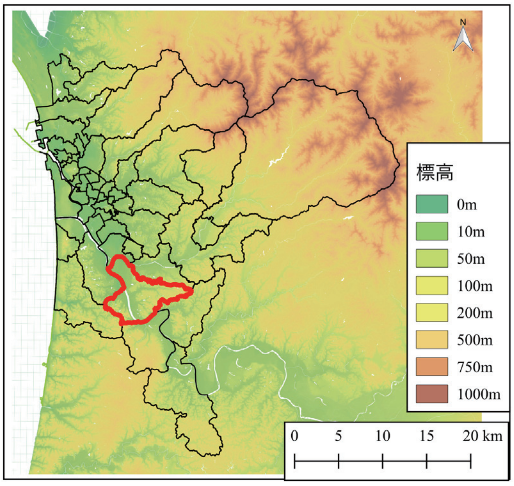
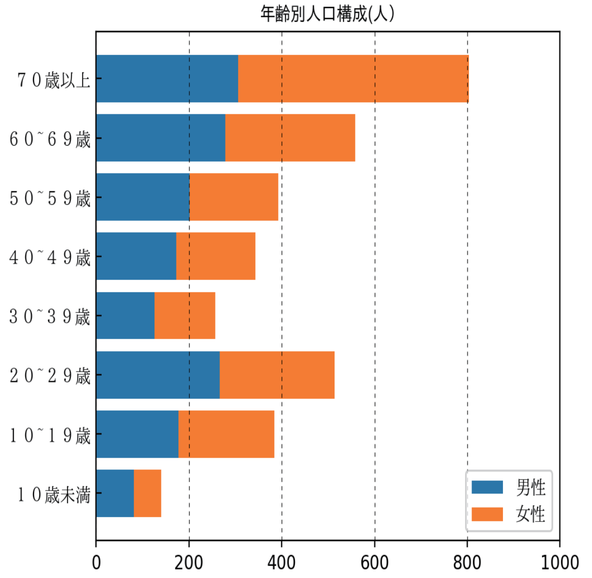
44：雄和小学校（旧川添小学校）区

位置図



1　居住者の現況

人口	3,394 人
世帯数	1,611 世帯
65 歳以上人口	1,103 人
10 歳未満人口	140 人



平成 29 年 4 月 1 日現在

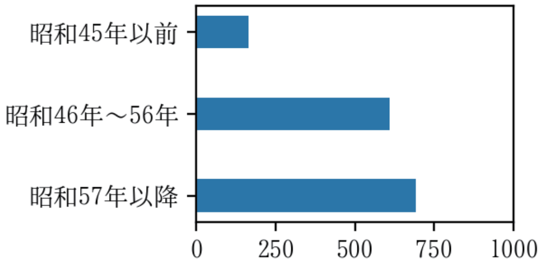
2　建物に関する指標

■ 構造別建物棟数（棟）

	棟
木造建物	1464
非木造建物	160

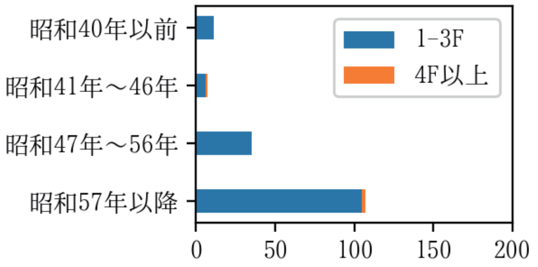
■ 建築年代別木造建物棟数（棟）

	棟
昭和57年以降	692
昭和46年～56年	609
昭和45年以前	163



■ 建築年代別非木造建物棟数（棟）

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	105	2
昭和47年～56年	35	0
昭和41年～46年	6	1
昭和40年以前	11	0



平成 22 年 8 月現在

自然的・社会的基本指標

雄和地区の北部に位置し、雄物川の左右岸の低地部と椿川地区などの丘陵部からなる。雄和地区の基幹的公共施設が位置するほか、秋田空港および日本海東北自動車道が通り、交通の要所となっている。丘陵地端部などに急傾斜地等の危険区域が分布する。人口構成としては、高年齢者層ほど比率が高いが、近年、学校区内に大学が新設されたことにより 10 歳代および 20 歳代の人口が多くなっている。65 歳以上の高年齢者層は全体の 33% である。建築物の約 9 割は木造建物である。昭和 57 年以降の建物は全体の 49% を占める。

3　自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■　洪水

	指定河川	雄物川		
	浸水面積 (%)	20.9		
	最大浸水深 (m)	ランク 5		

■　土砂災害

* 土砂災害危険箇所

	種別	箇所数	主な指定箇所
	急傾斜地崩壊危険箇所	20	山崎山、寺沢、館ノ下、関田、堤根、地張山、椿川字中村、安養寺、平脇、水沢、槐下　他
	土石流危険渓流	21	安養寺沢、関田沢、館ノ下沢、糠塚沢、寺沢沢、上の沢、上大部沢、水沢沢、大又沢、長者屋敷沢、堤根の沢　他
	地すべり危険箇所	1	水沢
	なだれ危険箇所	23	大又、山崎山、平沢字水沢、大沢口、館ノ下、椿川字中村、平脇、関田、堤根、妙法　他

* 土砂災害警戒区域

	種別	箇所数	主な指定箇所
	土砂災害警戒区域	34	上大部沢、本田沢、館ノ下沢 1 、2 、寺沢、関田、堤根　他
	うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■　地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9 ）

	平均震度	震度 6 弱	
	(計測震度)	(5.80)	
	震度 6 強以上となる面積（%）	13	
	液状化危険度ランク	5	
	建物全壊率（%）	4.2	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

	浸水面積（%）	(該当なし)	
	最大浸水深（m）	(該当なし)	

4　災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■　要支援者関連施設（収容施設のみ）

	種別	施設数
	高齢者支援	9
	婦人幼児支援	0
	障がい者等支援	2

■　幼稚園・保育所等

	種別	施設数
	保育所等	1
	こども園	0
	幼稚園	0

■　学童支援施設

	種別	施設数
	児童館等	1

■　学校等

	種別	施設数
	小学校	1
	中学校	1
	高等学校	0
	大学・短大・高専	1
	養護学校等	0

5　防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■　消防関連施設

	消火栓数（箇所）	101
	防火水槽（箇所）	45
	消防車台数（台）	10
	消防ポンプ数（台）	6
	消防団員数（人）	103

■　避難所／避難場所（別表参照）

	災害種別	施設数
	洪水	7
	土砂災害	7
	地震	10
	津波	0
	福祉避難所	2
	津波避難ビル	0
	津波警報サイレン	0

■　救急・防災関連施設

	種別	名称／箇所数
	管轄消防署	秋田南消防署
	管轄警察署	秋田東警察署
	病院・医院数　（歯科を除く）	2
	最寄りの救急告示病院	秋田赤十字病院
	自主防災組織数	11

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により、雄物川左右岸の平地部が広く浸水すると想定されている。特に平沢地区から石田地区にかかる右岸域では最大 10m 未満の浸水となる可能性があり、住宅被害も想定しうる。学校区のうち雄物川を渡る橋は、水沢橋および黒瀬橋の二橋であるが、その橋の両岸も浸水の恐れがあることから、左岸部と右岸部の交通が分断される可能性も想定しうる。

土砂災害の危険性が多く指摘されており、そのうち 34 箇所（急傾斜 18 箇所、土石流 16 箇所）は警戒区域等として指定されている。

学校区北部の平地（田草川地区、芝野新田地区付近）では、その他の地区と比較してやや揺れやすい傾向がある。液状化の危険性は平地部で高い。津波による浸水は想定されていないが、雄物川河川敷においては津波が遡上する危険性があるので注意が必要である。

防災上の課題と対策

川添小学校区は、岩見川と雄物川合流点付近から、雄和地区の中心市街地までを含む地域である。学校区内に秋田空港があり、緊急輸送道路である日本海東北自動車道、県道秋田御所野雄和線、および県道秋田雄和本荘線が通るなど、災害時輸送において交通上の要衝となっている。

地域の建物のほぼ半数は旧耐震建築物である。

指定避難所および緊急時一時避難場所の多くは洪水による浸水の可能性がある地域に立地している。さらに雄物川の左岸部（下黒瀬地区）からの避難が困難となる場合も想定しうる。これらのことから、集落を単位として避難の場所や方法、経路などについて、近隣学校区の避難施設を利用する、あるいは垂直避難を考慮するなど多様な避難方法を含めた地区避難計画を検討し、訓練などを通してその実効性を確認するなど、事前の防災活動が展開されることが望まれる。

国際教養大学が設置されたことにより若年層の構成比率が高い人口構成となっているが、今後若年層の定着と関連就業人口のさらなる増加などが図られることにより、地域防災力が活性化し増強されることが期待される。

■　避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ／土石流	地震	津波	大規模火災	
雄和小学校（体育館）	○	○	x	○	x	x	182 人
雄和中学校（体育館）	○	○	x	○	x	x	470 人
旧川添小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	9,055 人
旧川添小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	237 人
雄和体育館	○	x	○	○	x	x	364 人
長者やま荘（雄和地区北部ｺﾐｭﾆﾃｨ施設）	○	○	○	○	x	x	113 人
雄和市民サービスセンター	○	x	○	○	x	x	280 人
雄和ふれあいプラザ敷地(一部)	x	x	○	○	x	x	1,269 人
雄和花の森野球場	x	○	x	○	x	x	6,920 人
雄和サイクリングターミナル	○	○	○	○	x	x	151 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム花の家	雄和石田字苗代沢 18 番地	018-886-2626
デイサービスセンター緑水苑	雄和石田字苗代沢 25-1	018-886-5110

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	